

## 第4回 愛媛研修医OSCE大会に 参加して



臨床研修科 大内 菜摘子

2017年11月19日に愛媛大学で開催された第4回愛媛研修医OSCE(オスキー)大会に参加してまいりました。OSCE(Objective Structured Clinical Examination)とは、身体診察や問診などの実技能力を評価するための客観的臨床能力試験のことで、医学生の実習試験としてよく用いられます。今大会は愛媛県内の2年次初期臨床研修医を対象としたOSCEを通して、病院・組織の枠を超えた臨床能力の統一的评价及びその後の研修において指標となるフィードバックを与えること、また若手医師の育成指導者が充実した臨床指導を行うための指導方法・能力を習得することを目的に開催されました。

評価はシナリオステーションとして2題、ハンズオンステーションとして3題が行われました。シナリオステーションではあらかじめ用意されたシナリオに従って模擬患者やシミュレーターを相手

に問診・身体診察から検査の説明、急変への対応を行ったり、患者からの退院状況の確認、多職種カンファレンスを経て退院後療養計画を作成しました。

普段の研修において、患者やコメディカルへの対応などを複数人から評価される機会は少なく、貴重な経験となりました。急変患者の対応では、迅速な対応が必要とされましたが、普段の指導医の姿を思い出し、適切な行動をとることができました。

ハンズオンステーションでは、胸部の身体診察、研修医教育、腰椎穿刺などが行われました。研修医教育のステーションでは、研修医役の医師の相談にのり指導を促すというものでした。普段は自分自身が学ぶことに夢中で、指導する立場として意識することは少なかったため、新鮮な内容に感じました。

また、あと数ヶ月で初期研修を終え、一人前の医師として後輩教育も行ってい

かなければならぬことを実感させられました。

今大会は私自身にとって約3年ぶりのOSCE試験でした。医学部を卒業してからこの一年半での自分の成長も感じられる一方で、日々の業務の中で基本的な事項がおろそかになっていた部分も痛感しました。これらの体験・研修内容は研修医間で共有し、これからの研修に生かしていきたいと思います。



1年目、2年目初期臨床研修医

## 海外出張報告

2017年9月  
in  
サンフランシスコ

## 筋強直性ジストロフィー国際学会 (IDMC11) 参加報告

臨床研修科 明地 雄司

2017年9月5日から米国サンフランシスコにて開催されたIDMC(International Dystrophia Myotonica Consortia)11に、筋強直性ジストロフィー患者会として参加してきました。IDMCは2年ごとに開催され、医師、研究者、製薬企業、患者団体が参加する国際学会です。4年後は日本で開催される予定です。

会場では、これまでの患者会活動を説明したパネルや、患者会で制作した小冊子「知ってください筋強直性ジストロフィー」の英文版などの印刷物を展示しました。テーブル展示を行い、日本にも多くの筋強直性ジストロフィー患者と家族

展示の様相



がいることを、世界の研究者・製薬企業に向けてアピールしました。

この国際学会では、学術発表だけでなく、患者団体がスピーチする機会も与えられています。私自身が診断され神経内科医を目指すようになった経緯、日本にも患者会が設立されたこと、患者会の活動(小冊子発行やセミナー、勉強会開催)などについて説明しました。フロアやクローキングディナーではいろいろ声をかけていただきましたが、英語力の必要性を感じました。

この病気は筋ジストロフィーの中の1型で、ミオトニアと多彩な合併症を特徴とし、緩徐進行性に筋力が低下するタイプです。根本的な治療法はまだありませんが、昨年、脊髄性筋萎縮症の治療薬が認可されたように、こういった病気にも治療の可能性がみえる時代となりました。今回の学会でも核酸医薬やドラッグリポジショニングなど早期の治療が期待される発表や、遺伝子編集など最先端の研究も

報告され、白熱した議論がなされていました。

今回の学会は臨床研修とは関係しませんが、快く参加を許可して下さった山本院長、個人的な活動も行わせていただける松山市民病院内の初期研修環境に感謝いたします。初めての国際学会参加でしたが、良い経験を積むことができました。将来は学術発表もできるよう、精進していきたいです。

患者会のメンバーと日本から参加された先生

